

津市埋蔵文化財センター情報

まいぶん津

2015.3.31
第13号



徳居10号窯跡 焼成部（東から）

最近の調査から

とくすえ ようあと にしもうたに
徳居10号窯跡・西毛谷A遺跡発掘調査

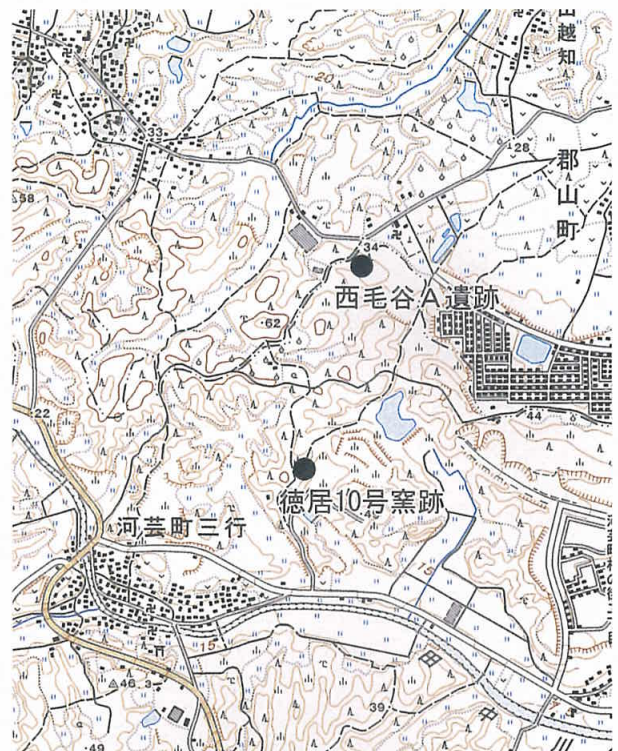
(河芸町杜の街4丁目)

徳居10号窯跡は、田中川の北側の標高約40mの丘陵尾根近くから西側の谷に面した場所で見つかりました。周辺では消滅したものも含め38基の窯跡が確認されており、徳居窯跡群は古墳時代後期から奈良時代にかけて三重県下最大と言える須恵器の生産地でした。

窯跡(表紙写真)は、西側に開けた谷の斜面に焚口を設け、トンネル状に掘り込んで造られ、壁面は高熱のため赤く変色しています。

窯の奥行きは7m以上、焼成部の幅は2.2m、高さは1.3mありました。残念ながら天井は崩れ落ちていましたが、窯の前庭部や焚口、燃焼部の壁から床にかけて確認でき、壁や床には窯を改修したと思われる痕跡が見られました。西側斜面の灰原^{はいばら}は、最大で幅13mにわたって広がり、窯から掻き出された大量の灰や炭、失敗品の須恵器が出土しました。そのうちの大半は甕で、次いで蓋杯^{ふたつき}が多く、碗^{たかつき}や高杯^{はそう}、壺類、甕や硯など出土しました。窯跡は、7世紀後半には操業していたようです。須恵器の他に、ここで生産に関わった人が使用したものと考えられる土師器の甕やミニチュア土器なども出土しました。

西毛谷A遺跡は、徳居10号窯跡から北に約700m離れた丘陵の尾根筋、昭和28年頃に陶棺が出土した西毛谷北古墳のすぐ西に位置します。今回の調査では、大きさが約7.5mの方墳が見つかりました。墳丘や周溝の南半分は既に削られ、埋葬施設は確認できませんでしたが、周溝から須恵器の甕や蓋杯^{こしき}が出土しました。これらは7世紀後半のもので、徳居10号窯跡でも同様の須恵器が出土しています。おそらく徳居窯跡群で生産された須恵器がこのように周辺の古墳や集落などで使われていたのでしょう。(石淵誠人)



位置図(国土地理院『白子』1:25,000)



徳居10号窯跡全景写真(南から)



西毛谷A遺跡 古墳周溝出土の須恵器蓋杯

津城跡第4次発掘調査（丸之内）

津城跡は、安濃川下流域の標高約2mの沖積地に位置し、天正8年(1580)頃織田信包により築城されたとされています。その後入府した藤堂高虎によって、慶長16年(1611)から大改修が行われました。

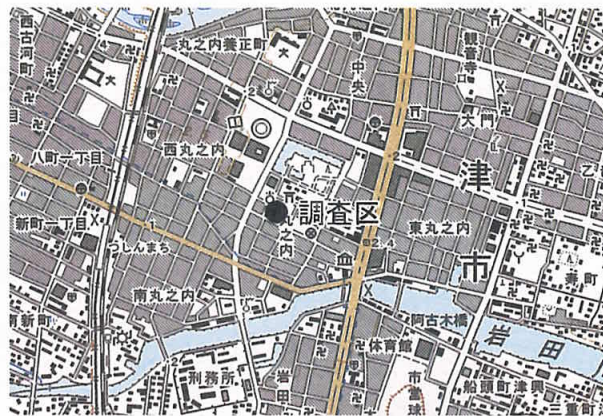
今回の調査区は、津城跡の内堀南西隅にあたります。現地表と堀底との比高差は約3mで、埋土からは埋立時の近現代のもののほか、近世以前の土師器や須恵器片等も少量出土しました。近代以降の埋立てや建物等によって失われた部分もありますが、東西方向の長さ約15m、高さ約0.5～1.5mの石垣が検出されました。石材の大きさは最大で約60cm、裏込めに直径5～10cm前後の栗石が用いられています。内堀北東部の調査では、石垣の基底部に胴木はありませんでしたが、今回の調査では、複数の胴木(直径約20～30cm、長さ約1.2～2.5m)が検出され、場所によって石垣の構造が異なることが分かりました。(石淵誠人)

小森城跡発掘調査（高茶屋小森町）

小森城跡は、伊勢街道を見下ろす標高約17mの台地の東端に位置しています。『伊勢名勝志』に記述があるものの、海軍工廠に伴う削平もあり、長い間所在は不明でした。昭和50年代の分布調査の際にL字状の土塁が確認され、城跡の存在が明らかになりました。

郭の大部分は過去の土取りで消滅していましたが、確認調査の結果、土塁の北側と西側に堀が存在することが明らかになったため、発掘調査を行いました。堀の深さは、土塁の頂部から3.5mあり、補足調査によって調査区の南端から3mの地点で屈曲し、さらに東に延びることが判明しました。

以上のことから、小森城跡は、全体の規模は不明ですが、堀や土塁の規模、低地との比高差が約10mにもおよび、眺望がきく位置に築かれていることなど、自然の地形を巧みに利用した城で堅固な防御施設をもつ城跡であることが判明しました。(村木一弥)



位置図(国土地理院『津東部』1:25,000)



調査区全景(北東から)



位置図(国土地理院『津東部』1:25,000)



調査区全景(北西から)

埋文センターこの1年

平成26年度日誌抄

4月8日《調査》西毛谷A・B遺跡、徳居10号窯跡

調査(6月30日まで)

4月9日《見学》津市観光協会 2名

4月25日《見学》神戸小学校 57名

4月30日《普及》あいつガイド講師

5月2日《見学》一身田小学校 117名

5月13・20日《普及》出張講座 雲林院地区

小学5年生 6名

6月12日《貸出》鎌切5号墳出土装身具、上村遺跡

出土子持勾玉一式

(津市青少年野外活動センター)

7月1日《見学》久居藩主ゆかりの名所めぐり

(中央公民館) 45名(久居分室)

7月5日《普及》徳居10号窯跡現地説明会

7月8日《調査》小森城跡調査開始

(10月25日まで)

7月30日《見学》三重大学学生 2名

8月17・18日《見学》80名(久居分室)

8月18日《調査》津城跡第4次調査(9月3日まで)

8月19日《普及》夏休みわんぱく学校

「発掘博士になろう!」20名

9月12日《調査》蔵田遺跡第6次調査開始

(9月22日まで)

10月1日《見学》公民館絵画教室グループ 10名

(久居分室)

10月3日《見学》健康ウォーク 女性グループ 8名
(久居分室)

10月17日《普及》南郊中学校小森城跡現場見学

10月25日《普及》小森城跡現地説明会

10月20日《見学》いちし健康づくり推進委員会
56名(久居分室)

10月29日《貸出》高茶屋出土銅鐸画像データ
(松阪市教育委員会)

11月3日《見学》近鉄ハイキング150名(久居分室)

11月25日《掲載》平田古墳群全景写真、平田12号墳
石室写真(三重県『三重県史』
通史編)

12月1日《掲載》大城遺跡出土刻書土器写真データ
(『三重県 地域の歴史を調べよう』)

12月2日《見学》パナソニック電工 松寿会
ハイキング部 57名(久居分室)

12月20日《掲載》明合古墳画像カラーデータ
(『古墳の地図帳』)

1月18日《普及》考古学講座 講師 菱田哲郎
「須恵器の窯跡を探る」

1月22日《掲載》大城遺跡出土刻書土器写真
(とびやま歴史体験館第20回企画
展『文字資料から見た宇都宮の
古代』)

1月23日《貸出》片野池2号墳写真データほか 7点
(松阪市教育委員会)

編集後記

ここで紹介できなかった調査もありますが、調査作業員をはじめ、発掘調査にご協力をいただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

市町村合併を機に『まいぶん津』として発行してきました本紙ですが、本号をもちまして休刊となります。今後は津市ホームページ(<http://www.info.city.tsu.mie.jp/>)上で情報提供を行っていきますので、よろしくお願いいたします。(編集子)

発行日：平成27年3月31日

編集発行：津市埋蔵文化財センター
〒514-0058
三重県津市安東町1225
TEL 059-229-0210
FAX 059-229-4601

印刷：共立印刷株式会社